



自分がどうなっていきたいかを大切に

佐藤 淳
佐藤皮膚科院長

私が皮膚科医になった理由は、医局見学に行った際、教授の人格に魅了され、彼のもとで学びたいと思ったからでした。人生の重大な選択としては、単純な決断でしたが、大切なのは「選択した後に何を指すか」であると思っています。何歳であろうと、「目的」をもつことに早すぎることも遅すぎることもありません。

医学部卒業後、私の最初の目標は、自分が選んだ診療科でいち早くスペシャリストになることでした。医学生時代は自由奔放に過ごしていましたが、卒業後はできること・学べることはなんでも吸収しようと実践しました。不思議なことに、気がつけば3年で大学院を修了し、その後、大学病院や基幹病院での研修、アメリカ国立衛生研究所(NIH)への留学、専門医の取得と、慌ただしい10年を過ごしていました。いま振り返ると、これほど順調に進んだのは、恩師である教授の座右の銘「情熱の持続」に影響されたからではないかと思います。当時は常にベストを尽くすことを意識し、留学中もデスクにこの恩師の座右の銘を紙に書いて貼って過ごしていました。短期的に熱中するのは比較的簡単ですが、それを長く続けることはむずかしいものです。ぜひ、若い先生方も、何か目的をもって倦まず弛まず専念してください。きっとその先には、何かが見えてきます。

次の目標は、地元の住民に信頼され、人気のある

開業医になることでした。ここで、開業医であった父の言葉を紹介します。「患者さんから信頼を得るには、最低でも5年間は自分の専門分野に集中し、誠実に患者さんと向き合いなさい」というものでした。この教えのおかげで、開業は順調にスタートしました。しかし、真の信頼を得るには、10年かかったと実感しています。これから開業を考えている先生方への私からのメッセージは、医院の経営や運営など目先のことに意識が向きがちですが、経営者の立場からだけでなく、医師として「患者さんの視点に立って物事を考えること」が何よりも重要だと思います。

最後に、若い先生方にお伝えしたいのは「将来自分がどうなりたいか」を明確にすることです。長期的な視点を持ち、まずは10年後の目標を立て、それに向かってひたすら前進してください。そしてその中で巡り合った「出会い」を大切にしてください。私にとって、皮膚科医としての基本姿勢を教えてくれた故荒田次郎先生、研究と人生の楽しさを教えてくれた故Stephen I Katz先生はじめNIHの仲間との出会いは、私の情熱の原点といっても過言ではありません。

私から、後輩の諸君に捧げる言葉は「目標をもつ」「情熱の持続」「出会いを大切に」この3つです。皮膚科のスペシャリストとして先生方が活躍されることを願っています。